

受付番号	356
------	-----

倫理審査申請書(臨床研究)

平成 30 年 1 月 22 日

岐阜県総合医療センター
院長 滝谷 博志 様

申請者 所属 小児療育内科
職名 部長
氏名 長澤宏幸 ㊞

岐阜県総合医療センター倫理委員会手順書第 3 条に基づき、下記のとおり申請します。

記

診療等の名称	年間を通した施設内の音環境調査			
代表者名	所属	小児療育内科	氏名	長澤宏幸
共同診療者名	所属	岐阜工業高等専門学校	氏名	青木 哲
診療等の概要 (実施計画書を添付のこと)	目 的 「すこやか」における環境を調査してきた。今回は患者・患児にとってよりよい音環境は何なのかを検証し、環境改善の資料とする。 方 法 病棟内の音調査 別紙参照			
診療等の対象、実施場所及び実施希望年月日 1 調査対象患者 直接患者について検査、調査するものではない 2 症例件数 0 例 3 実施手順 調査実施場所は、すこやか3階病棟。具体的位置は別紙参照。 4 調査期間 平成30年1月～平成32年3月 場合により延長もある。 5 患者の同意方法 該当しない 6 調査項目 別紙参照				

(注) 1 受付番号欄は記載しないこと。
2 紙面が足りない場合は別紙に記載する。

「重症心身障がい児施設すこやか」における音環境のあり方について

担当：建築学科 5年 青木研究室 柴田凌兵

指導教員：建築学科 准教授 青木 哲

1. 研究目的

重症心身障がい児施設は治療行為をサポートするほか、生活の場としての環境づくりも求められている。生活の場として重視される価値観の1つとして、「季節感」が考えられる。障がい児の障がい部位は多様であるが、様々な刺激を組み合わせることで、季節感を教示できる可能性がある。この「季節感」を与える要素として音環境が挙げられる。音環境は、個人の嗜好にもよるが、より豊かな空間を演出できる可能性を持つ一方で、外部からの騒音、電子機器の音などは、不快側として認識される場合もある。そこで本研究では、まず施設内で聞くことができる様々な音の実態把握を行い、その変動、種類、周波数域について把握・評価することを目的とする。また、保育士が試みられている音楽・効果音の再生など、障がい児にとっての豊かな音環境の創造についても一考する。

2. 研究方法

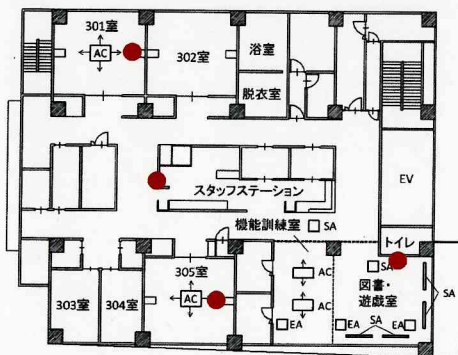
施設内の音をサウンドレベルメーター（小野測器社、LA-7200）で計測する。これにより騒音レベル（dB）の記録、音の録音を行う。

測定箇所は3カ所程度を想定し、期間はそれぞれ1週間連続測定する。三日おきに回収し、SDカードを入れ替える。測定場所の候補を図に示す。図の4箇所のうち3箇所に選定します。今回は「冬季の音環境」として位置づける。

測定期間（2017年12月20日～12月27日）

（2018年01月10日～01月17日）

（2018年01月24日～01月31日）を予定している。



●:測定候補



写真:測定方法

1. サウンドレベルメーターを用い、12月21日から約1週間録音する。

※測定のためコンセントを要する。

2. 時間帯別、日別で音を分類する。

3. 騒音レベルの観点で問題が無いか検討する。

4. 録音した音の中から冬季における季節音をリストアップする。 図：すこやかの環境基準

5. 測定期間内の特徴的な音や施設のイベントについてスタッフに聞き取り調査を行う。

地域	基準値 (L _{aeq} ,dB)	
	昼間	夜間
AA	50dB以下	40dB以下